

BOATMEN

NPO法人 石川県小型船安全協会会報「ボートメン」 24号 (2012年12月発行号)

Vol. **24**

トピックス …小松梯川で係留場に関する検討会、ざぶん賞2012表彰式

活動報告……マリンレジャー安全推進旬間出動式、海の事故ゼロ運動、夏のイベントなど

行政から……平成24年度事故の状況、金沢・七尾海上保安部着任のご挨拶

ざぶん賞受賞作品◎ ポートマンズエッセイ・海と一緒に



小松梯川の係留に関する協議が行われています。

8月22日、10月18日 梯川水面利用調整会議準備会開催。暫定係留について検討など

8月、前年度から引き続き、梯川の係留に関する会議が開催されました。国土交通省 金沢河川事務所、石川県河川課・水産課、小松市農林水産課・道路河川課、漁業協同組合小松支所、安宅町内会連合会、鶴ヶ島町内会の皆様、および当会の小松マリクラブが出席しました。

梯川拡幅・護岸整備工事に伴う係留について、その後、金沢河川事務所と当会小松マリクラブが何回か意見交換を重ね、河川暫定係留の具体案が検討されました。

もし実施する場合は、護岸に設置する新たな係留設備(杭など)は、受益者負担となるため、小松マリクラブの会員への説明と、整備後の利用についての意志調査も同時に進めています。

今後の予定は本格的な協議会が発足され、工事や管理体制について検討される予定です。

10月11日 信濃川係留場を視察

北陸整備局を介して、暫定河川係留の先行例として、新潟県の信濃川係留場を小松マリクラブのメンバーが視察しました。平成7年～10年にかけて、工事を順に行い、現在は約150隻のボートが係留されています。

この施設の管理は新潟市が新たに立ち上げた公社が担っており、年間係留料はボートの大きさごと約9万～20万円となっています。

信濃川はほとんど降雨時でも水位の上昇がなく、簡易的な設備で繋がっていますが、梯川においては護岸を超えた水面上昇が起こりうるため、一隻あたり適性のサイズのポールを水面に数本打ち込む設備が必要となります。



ざぶん賞2012(第11回)表彰式開催

11月23日 金沢で表彰セレモニー開催

当会が共催しているざぶん賞の表彰式が、金沢市のホテル金沢にて開催されました。今回は全国の小中学生から過去最高の約7,000作品の応募が。また石川県からも約850作品が集まりました。全国表彰と石川県地区表彰に選ばれた皆様が招かれ、約180名が参加しました。

式では、会長の月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)があいさつ、続いて選考委員長の安部龍太郎氏が、今年日本経済新聞に一年間連載した小説「等伯」の主人公、桃山時代を代表する画家の長谷川等伯(七尾市出身)について講演をいただきました。

続いて来賓を代表し、金沢市長の山野之義氏が、また顧問の馳浩氏から歓迎のあいさつをいただき、その後、各入選者に順に壇上で賞が授与されました。

石川県内の入選者には、石川県知事賞、石川県教育委員会賞、金沢市長賞、うみまる賞(金沢、七尾両海上保安部長表彰)がそれぞれ渡されました。



(速報) 安部龍太郎氏の「等伯」が、第148回直木賞を受賞しました。

ざぶん賞の選考委員長に第1回目から就任され、この広報誌ポートメンの第1号にエッセイを執筆いただいた、作家の安部龍太郎氏の「等伯」が第148回直木賞を受賞されました。「等伯」は、同じく当会に協力いただいている画家の西のぼる氏が挿絵を描き、昨年からの1年間、日本経済新聞に掲載された小説です。



総会開催。24年度の計画が承認

3月2日 加賀市で

総会は、会員、および来賓の皆様、約80名が出席され、加南支部の協力により、加賀市で開催されました。

議案審議では、引き続き安全指導、パトロールの活動強化、ライフジャケットの着用徹底を県内各地で行うこと、係留保管場所整備、海洋体験推進事業、文化創造事業などの計画が承認されました。

役員改選では、輪島マリンクラブの加藤武治氏が理事退任、加賀マリンクラブの小倉恒久氏の理事新任が、またその他の役員の留任が承認されました。



海上指導員講習会を開催

各地で海上安全指導員の講習会を開催しました。

海上安全指導員は、当協会が金沢、七尾の各保安部に推薦し、保安部から委嘱された方で、同じく委嘱されたパトロール艇とともに海の安全活動の監視や指導を行っています。

マリンレジャー安全推進週間出動式

4月28日 金沢港で（金沢支部）

金沢支部で、大型連休前のマリンレジャー安全推進週間の出動式を、金沢海上保安部の協力のもと行いました。

約20名、4隻が参加し、金沢港護岸周辺と、港内のパトロールを行い、レジャー活動者に安全の指導を行いました。



海の事故ゼロ運動

7月1日 七尾港で（能登支部）

能登支部では能登水難救済会、七尾海上保安部とともに、海の事故ゼロ運動として、海啓蒙活動を行いました。

市内の企業から一日海上保安部長2名、保育園児の一日保安官を任命し、陸上、海上で安全の呼びかけを行いました。その後、情報伝達に関する海難訓練を行いました。



各地で合同安全訓練、講習会を実施

6月3日 小松安宅沖

滝加南支部（小松マリンクラブ、手取会）と小松美川水難救済所の合同海難訓練を実施しました。安宅沖は過去にも事故が数回起きている海域であり、今年も地域の警察や消防らとの連携を密にして行われました。陸上に設置した本部の指示のもと、海上で迅速な行方不明者捜索、海中転落者救助、発炎筒点火等の訓練を実施しました。



10月12日 羽咋滝港

滝港にて羽咋支部、羽咋マリンクラブは、羽咋救難所との合同の海難訓練に参加しました。海上保安部員の指導のもと、訓練を行いました。

7月29日 珠洲沖、 10月25日 輪島沖、
10月30日 穴水湾

珠洲、輪島、穴水地区でもそれぞれ訓練を実施しました。輪島では関係団体と合同で100名以上が参加。珠洲は48名8隻、穴水は38名3隻が参加しました。



夏のイベントを各地で開催。

ボート天国・マリンスポーツチャレンジデー 7月16日 七尾港

恒例となった七尾港の体験航海「ボート天国」が開催されました。約300名の多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。

七尾マリン協会、雌島クラブ、七尾セーリング協会が協力しました。



親子ボートフィッシング大会 7月22日 小松、美川 塩屋沖ではキス釣り大会開催

今年も小松、美川で、親子を対象としたボートフィッシング大会が開催されました。

小松マリンクラブと手取会のメンバーが協力、小松では111名、美川では54名の親子が参加し、きす釣りを体験しました。

また同日美川では白山市の山間部と海岸部の子供たちが交流する「おやこで日本海クルージング」事業に手取会が協力。53名の親子を22隻のボートに乗せ、沖合を併走しました。近年小さな船に乗る機会のない子供たちは間近の波頭と海風を浴び、楽しんでいました。



能登島里海シーカヤック大会に協力

9月1、2日 能登島で開催

能登島の豊かな自然を海から探索し、その環境保全と心身の健全な育成を目的とする能登島里海シーカヤックフェスティバル。今年は3回目となり全国から多くの愛好家が能登島を訪れました。2日間に渡り、能登島周囲のコースで行われました。

当会能登支部は運営全般に関わると共に、走行を監視するボートを提供し、安全な海洋レジャーの保持に協力しました。



各地でクリーンビーチ、森の植樹や草刈りに参加

金沢支部 5月27日、加南支部 6月25日他各地

金沢支部は今年もクリーンビーチに協力しました。金沢は大野、金石で、天候にも恵まれ、多くのメンバーが参加しました。加南支部では小松マリンクラブが安宅海岸で参加しました。

大聖寺川漁業組合マリンクラブは6月～8月にかけて山中県民の森で草刈りを実施。今年は雪折れがひどく、3回に分けて行いました。



トリアスロン珠洲大会に協力

8月25、26日 珠洲 鉢ヶ崎

トリアスロン珠洲大会に、今年も長浜マリン協会の皆様が、スイムの海上安全において協力いたしました。メンバー33人(隻)がボートを提供し、各配置にて監視しました。

合間に何度も七尾のPRをしていただき感謝にたえません。

11月中旬早朝、安部さんより直木賞にノミネートされたとのメールをいただきました。七尾の関係者は当然受賞されるものと確信し、祝賀の宴をいつ開催かと話が弾みました。

そして受賞後の数多くのインタビューやテレビ出演時には、常に七尾、そして七尾での人との出会いに感謝しているなど話され、誠に有りがたいことです。

会員や関係の皆様、ぜひ小説「等伯」をお買い求め、読んでいただきますよう、なにとぞお願いいたします



酒井達夫氏を偲んで（訃報）

当会理事で、羽咋マリクラブ会長の酒井達夫氏が、7月23日ご逝去されました。

酒井様は海を愛し、ルールを率先して守り、当会の規範として活動されました。また何事にも冷静かつ理論的に判断することにも長けておられました。

数年前の初夏の穏やかな日、滝港にお寄りしたら、酒井さんが「ちょっと出ようか」と、まるで散歩に誘うように、私を乗せて出港しました。程なく釣りのスポットに到着、素人の私でもものの5分くらいで大きなスズキ3匹が釣れました。岸壁で竿を下ろし苦戦している多くの釣り人、その真ん中を凱旋するがごとく、早々と寄港しました。

日ごろの努力と熱心な研究を隠し、難しいことを簡単にやってのける人がプロだといひます。酒井さんはプロでした。

酒井さんは私に、海の魅力を伝えたかったのだらうと思いますが、一方で「努力をしない者が、本来は成果をあげてはいけないのだよ」ということを、教えられた気がしました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。（事務局）

会員から

安部龍太郎さんを七尾にご案内。取材に協力。

理事・能登支部事務局長
中越 政秀

安部龍太郎さん、直木賞受賞おめでとうございます。

時代小説作家の安部さんは、当会の共催事業であるざぶん賞事業の創設期から選考委員長として尽力いただきおあり、同氏とは高嶋会長及び、同じくざぶん賞を牽引してきた挿絵画家の西のぼるさんを通じて出会いました。

「長谷川等伯を書いてみては」と西さんが安部さんに進言したことから小説「等伯」が生まれたそうです。

安部さんは執筆にあたり、等伯生誕の地、七尾に来られ、風土、気風や文化、宗教観、お祭り、また何が美味しいのか、どんな酒を飲んでいるのか、そして畠山文化と七尾など、様々な視点で時代背景を検証するお姿に、また素晴らしいお人柄に間近に接しました。その執念にはただただ驚嘆するばかりでした。

こんな私でも「七尾の窓口」として同氏のご期待に応え、できる限りご案内をさせていただき、少しはお役に立てたかと思っております。

平成23年1月22日から日経新聞に連載が始まり翌年5月13日まで、実に465日間、お疲れ様でした。連載中には七尾で講演会や西のぼるさんの挿絵展などの開催、9月には小説「等伯」出版記念講演会と挿絵展など、お二人には多忙の



スナップ



マリンレジャー
安全推進週間出動式・金沢港

ポート天国2012・
七尾港



海の事故ゼロ運動2012・七尾港



おやこで日本海クルージング
白山美川



ざぶん賞2012
表彰式・金沢



能登島里海
シーカヤック
大会・能登島



編集後記 海外で日本人が犠牲になる悲しい事件が続きました。外国では日本の常識が通じないことはわかっていますが、平和で経済復興と成長を成し得たが故に、他国に我が国のすばらしい文化や考え方をきっと理解していただけるはずだ、という甘えもあるのではないのでしょうか。歴史を様々な角度から紐解く直木賞作家の安部龍太郎さんは、人類の最大の欠点は敵とエゴイズムだと。今日の敵の産物が「核兵器」であり、エゴイズムの産物は「原発」であるとおっしゃいます。「欠点」を治すことは容易ではありませんが、未来に向けて克服しなければいけない課題です。我々は、微力ながら自然の恵みに感謝する心だけでも次代に伝えたいものです。